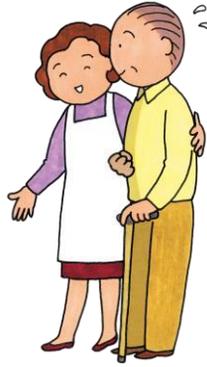


ボツリヌス療法のご案内



手足のつっぱり(痙縮)の治療

脳卒中の後遺症のひとつに痙縮という症状があります。痙縮とは手足の筋肉のつっぱりです。ひじが曲がったまま伸びない、手の指が握ったまま開かないなどの症状は、手足の筋肉のつっぱりによるものなのかもしれません。このような症状でお困りの方はご相談下さい。

代表的な痙縮

- ・手指が握ったまま開きにくい
- ・肘が曲がって動かしにくい
- ・足の筋肉がつっぱって歩きにくい

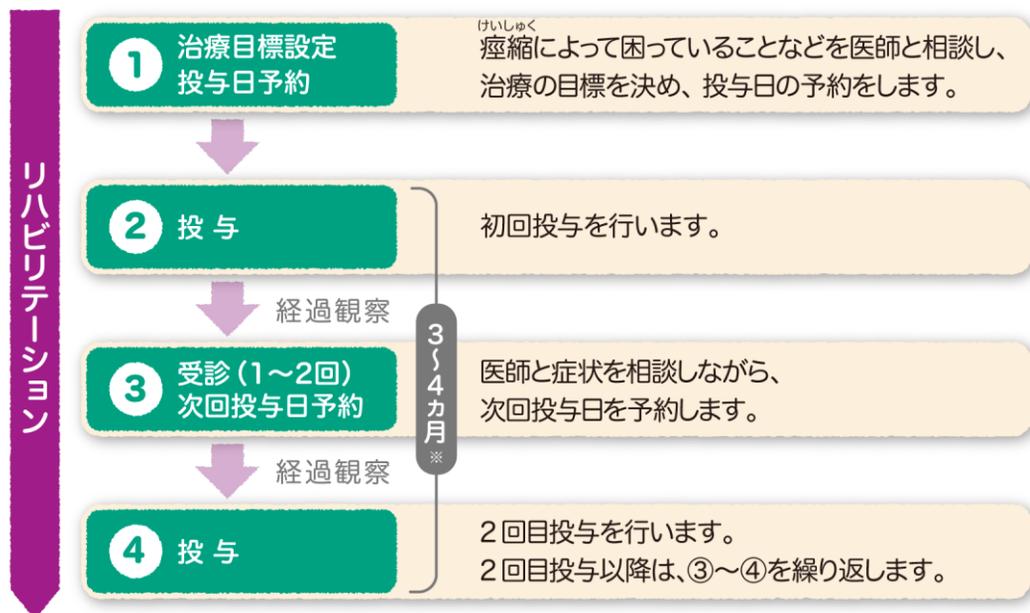


ボツリヌス療法とは

ボツリヌス療法とは、ボツリヌス菌が作り出す天然のたんぱく質を有効成分とする薬を筋肉内に注射する治療法です。効果は注射後2～3日後から徐々にあらわれ、通常3～4ヶ月持続します。ボツリヌス療法により、痙縮そのものが治るわけではありませんが、治療によって痙縮がやわらぎ、日常生活動作やリハビリテーションを行いやすくなることが期待できます。

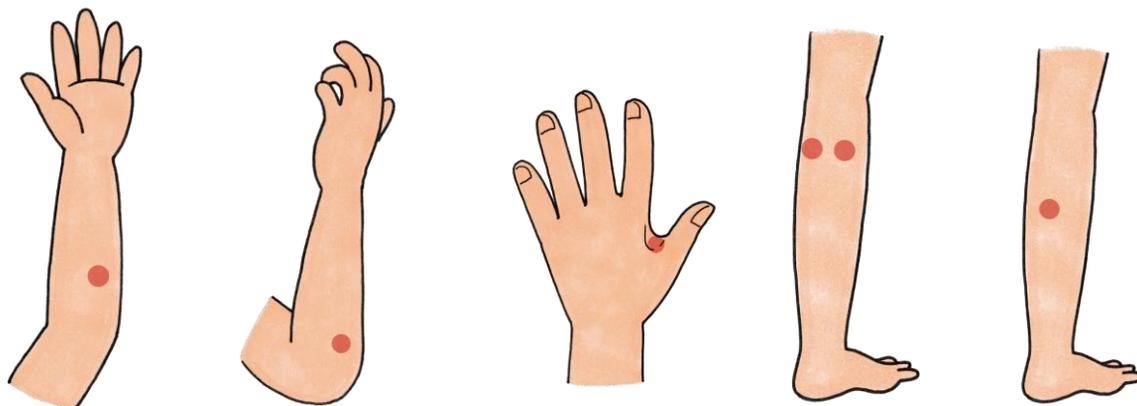
ボツリヌス療法 治療の流れ

● 治療スケジュール例



※次の投与までの期間には個人差があります。

痙縮の見られる筋肉に注射します
(主な注射部位)



実際に治療を受けられた方々から、

「手が開くようになった」「痛みが楽になった」

「服の脱ぎ着が楽になった」といった日常生活の不都合が軽減したとの声を頂いております。

手足のつっぱりでお悩みの方はご相談下さい。